

### 「GALA」への想い 京都支部 大山紀美子

一枚の絵を描くにあたり、常に街の中、野山に思いを馳せ描くことが望ましく思われます。

美しさだけでなくその時目にした心に入り印象付いたもの、そして豊かな色彩、澄んだ空気の流れ等、物の訴えが感じられます。その様な絵が描ければ素晴らしいと思っておりますが、夢はなかなか叶い描く事は出来ていません。世間では日本歴史風景、日常生活の行為、又斬新な新世界観など津々浦々に描かれた絵が多く目にします。ここ数年、私は宇宙での「GALA」(地球)をテーマにして日々描くことに挑戦しています。

世の流れの中で、自然環境の大切さが問われている昨今、私達はこの美しい地球が如何に大切であり、又掛替のない宝である事を忘れてはなりません。私は「GALA」にそんな想いを込め描き表現していければと思っております。

### 委員を退くにあたり 山崎陽子

厳しい寒さが続きましたが少しづつ春の息吹が感じられるようになりました。

過日、事務局長より名誉会員というお話を頂き、恐縮するも感謝の気持ちで一筆したためる事に致しました。退会することにしたのは糖尿のみならず血圧上昇、去年の展覧会終了後心臓の弁膜症と言われたからです。

若い時に二紀会で宮本三郎から賞を頂いたことで、才もないのに絵にとりつかれ二紀、女流にも出し続け十年経ちましたが、主人を亡くしたので断筆することとなりました。また何やら虫が動き出すように新日美に入会させてもらい四回展より出品してきました。

二存じの通り次々と才能ある人が出品され都美術館での評価も高くなりよい季節に開催される事になりました。思い起こせば日韓交流展でソウルに行った人も現存する人は少なくなり島根支部をはじめ事務局をしていた四年間は香川支部、京都支部に行きその活気ある姿に触れる事が出来ました。

事務局在任中は手助けして下さった方々の幾つものシーンが脳裏をよぎり感謝の気持ちでいっぱいです。

これから余生は静かにと思いつつも今までの習性なのか完全に絵から離れる事ができません。大作は描けないので板橋美術家展に出品予定はしていますが・・・  
会員の皆様、本当に長い間いろいろと有難うございました。

### 京都支部だよりから 四方公子

東日本大震災から一年が過ぎ、まだまだ不安な毎日を通り過ぎておられる被災地の方々を思い、これからの一日でも早い復興を祈ります。新日美京都支部展が京都府京都文化博物館で平成24年3月14日から3月18日まで開催されました。

今年も例年より遅れているようで観光客の出足も心配しましたが、会場三階四階で開催されていた北斎展と重なり、好都合の開催期間でした。新日美会場への入場は例年より少し低調な感じはしましたが、会場設営はいつも通りの立派な会場となり、雰囲気も良く作品を大いに引き立てていました。次期の巡回展が楽しみにもなりました。第三十六回東京本展に向け意欲がわきます。今年も開催が早くなっています。皆さんの制作もそれを目標に頑張ってくださいませう、お願い致します。

### 酒乱の画家ユトリロと母ヴアラドン

シリーズ画家伝 大石 亨  
モーリス・ユトリロは一八八三年十月二十六日、パリモンマルトルに生まれた。母はマリー・ヴアラドン。父は酒精中毒者で彼を認知しなかった。

母ヴアラドンは後に女流画家として立つほどの女性だが、当時はまだモデルをしていた。少女の頃、この街角で軽業を演じていたマリイは何時しか画家たちの目にとまり、乞われるままにモデルとなった。モーリスをかかえて

再婚したものの新しい父は何故かモーリスを認知しなかった。これを見兼ねたスペインの美術評論家ミゲル・ユトリロが養子とした。モーリス八歳の時のことである。モーリスの飲酒癖は十八歳の頃から始まった。この年、最初の酒精中毒症状をおこして医師の診断を受けた。その時、医師の忠告もあって母は飲酒癖を止めさせる手段として絵を描くことを教えた。

絵を描き始めたユトリロはたちまち母も驚くほどの天才ぶりを発揮した。しかしユトリロの正気は長くは続かなかつた。一枚の絵を仕上げた後、またしても酒の誘惑にかられ飲めばたちまち中毒症状を引き起こす。こうしてユトリロは生涯に十数回の入・退院を繰り返しながら、発狂から覚めると次々と傑作をモノにした。いつの間にかパリ風景画家の第一人者となっていた。

これもひとえに母の愛情によるものだ。ルノアールのモデルをやり、自らも絵を描いたヴアラドンは息子モーリスを一人前の画家に仕上げた。息子がアル中のため絵を描けなくなった時は、代筆までしたと言われる。その母が老いると、今度は若いリニシーを妻に迎えて助けをかりたとか。

まさにユトリロの栄光は母と妻の並々ならぬ愛情と庇護に支えられたものというも過言ではない。(ユトリロ死去一九五五年)

### 会員二川博さんを悼み

二川博さんと知り合ったのは今から九年前に私を訪ねてこられてから、私の仲間と一緒に楽しく絵を描くようになってからである。

恰幅がよく清楚な感じで誠実さがにじみ出ているような人柄であった。

二川さんはバイオリン奏者でもあったので東京で最後の私の個展では一流の演奏家との弦楽四重奏を開いていたとき、昨

年はまた新日美東京支部展でも演奏をして下さいました。

私が松本市の老人ホームに入ってしまったからもこの施設まで来て演奏をして下さいました。松本での個展の搬出の日にも応援に來られ、その他にも私を案じて見えてくださいました。

いつも東京ではボランティアで病院や介護施設で慰問をされていた心優しい二川さんが、私の八十八歳の誕生日に私より早く他界されてしまいました。美しい花園で音楽や絵画を楽しんでください。さようなら。

### 新日美のホームページがまた充実しました

会員専用ページに新日美会報がストックされています。土屋委員の骨折りで、過去の会報がカラーで見える事が出来るようになりました。検索の仕方は会員専用ページを開き「会報マーク」をクリックすると、パスワードを要求するダイアログが出ますので、open198を入力します。会報一覧が表示されますので会報番号をクリックして、のぞいてみてください。(小高)

### 編集部より

原稿をお寄せ下さった方々に厚くお礼申しあげます。多くの方々の自由投稿お待ちしております。

次回発行予定:平成24年8月下旬

送り先:下記いずれにて可

本部:小高峯夫 〒350-0824 埼玉県川越市石原町2-53-6 Mail: m-odaka@pop.kcv-net.ne.jp  
京都:四方公子 〒613-0032 京都府久世郡久御山町栄2-1-77 Mail: kimiko-shikata@kdd.biglobe.ne.jp  
広島:藤原清二 〒720-1131 広島県福山市駅家町万能倉98-6 Mail: i-boom@ms13.megaegg.ne.jp

【前号誤植訂正】1頁 京都巡回展の会場名(正:京都文化博物館、誤:京都歴史博物館)、36回展搬入日(正:9月27・28日、誤:9月27・18日) 3頁千木良さんの記事(正:喜捨、誤:着棄)。訂正してお詫びします。